

科目名称	表現のための英語 I ⑤		
担当教員	岡村 光浩		
授業形態	講義	区分名	コミュニケーション
単位数	2.0	年次	2
履修制限等	※予備登録実施		
開講年度・学期	2016年度 前期	授業コード等	320101
授業目的・方針	作品制作や表現活動に関連した英語表現力を、inputとoutputの両面からトレーニングする。inputとしては、「現代アートと人間社会」についてのテキストを読み(リスニングもあり)、アート&デザインに関連した単語・表現のストックを増やす。outputとしては、テキストに従ってディスカッションや英作文をこなしていくと共に、最終課題としては(自分の)作品についてプレゼンを行う。		
到達目標	①作品制作や表現活動について英語で語れる「引き出し」を増やす②(自分の)作品を英語でプレゼンする。		
授業内容	1:オリエンテーション(授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2: Lesson1: Tradition Vs. Modernity 3: Lesson2: Migration 4: Lesson3: War and Conflict 5: Lesson4: Feminism 6: Lesson5: Queer Politics 7: Lesson6: Indigenous Culture in Australia 8: Lesson8: Indigenous Culture in the Pacific 9: Lesson9: Pop Culture 10: Lesson10: The City 11: Lesson11: Youth & Adulthood 12: Lesson12: Religion 13: Lesson13: Post-humanism 14: (自分の)作品についてのプレゼンテーション① 15: (自分の)作品についてのプレゼンテーション②/まとめ		
準備学習	この授業で使用されるテキストは全文英語である。またプレゼンもあるので、準備には相応の時間と労力が必要となる。		
評価方法	平常点(宿題・予習状況・受講姿勢)・小テスト/提出課題・授業時間内のプレゼン・期末試験により総合的に評価する。 各自のプレゼンについては授業時間内で行う。それに加えて、テキストの内容理解についての期末試験も実施する。		
使用テキスト	Wakeling, Emily. Art and Society. Nanundo, 2015. (英語で読む『現代アートと人間社会』南雲堂)		
参考テキスト	御園真紀『英語プレゼンハンドブック』ベレ出版、2010年 妻取千鶴子『英語プレゼンテーション すぐに使える技術と表現』ベレ出版、2004年、ほか担当講師より紹介。		
各自準備物	辞書: ジーニアス(大修館)・ウィズダム(三省堂)・オーレックス(旺文社)・Longman (Pearson) 等		
実習費			
その他	1. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻30分以上は欠席扱いとする。 2. プレゼン準備ではGlobal Cafeでネイティブスピーカーに英文チェックや練習相手をしてもらうことを強く推奨。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。その他詳細は担当講師より指示する。		